

小学校6年 総合的な学習の時間

相手意識・目的意識を明確にした「オリジナル和菓子のポスター作り」

川崎市立西御幸小学校 田村 露那

【実践報告の概要】

小学校6年生の総合的な学習の時間において「オリジナル和菓子作り」に挑戦した。和菓子の販売活動において自分達の一方向的な想いを発信するのではなく、相手意識や目的意識を明確にもって販売活動に取り組んでほしいと考えた。NHK for School「アッ！とメディア@～media～」を活用し、ポスターに掲載する写真を撮影する際のメディア・リテラシーを高める実践を行った。番組の展開に準え、教室でも4枚の写真を見比べる活動を行ったことで、撮影するときの工夫で伝わるメッセージがどのように変わるのかに気付くことが出来た。また、粘土を活用してオリジナル和菓子の撮影練習をし、互いに成果物を見合う活動を通して、「情報がどのように伝わるのか」消費者の視点で考えることが出来た。

【取組の具体】

「ポスターに掲載する写真をどのように撮影したら良いのか」について、学校放送番組を活用し考える学習を行った。
(授業の流れ)

①写真で想いを伝えたい！という気持ちを高める！

番組視聴 「アッ！とメディア@～media～」

②想いを伝えるための「工夫」を知る！

③目的意識・相手意識の大切さについて考える！

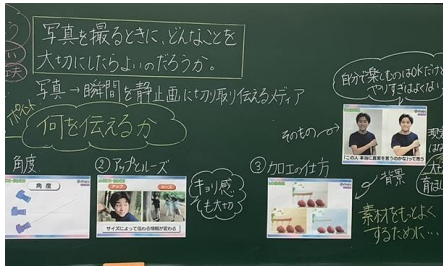
④撮影の練習をする！

「アッ！とメディア@～media～」 視聴
第9回「事実を写している？～写真～」

⑤学習の振り返り

想いを伝えるための「工夫」を知る！

写真は、瞬間を切り取っているもので、全ての情報を伝えることができるものではないことを確認した。また、写真のサイズやアングル、ポジションで、伝わるメッセージがどのように変わるかや、写真に後処理を加える際の注意点について考えた。



目的意識・相手意識の大切さについて考える

同じ題材でも、背景を変えたり小道具を添えたりすることで情報を受ける側の印象が変わることについて話し合った。番組内で取り上げられていた苺の例を発展させ、苺の生産者が写っているもの、大事に手で苺を持っているもの、苺を切り断面図を見せているものを見比べた。それぞれを見比べることで全く違う印象を受けることに気付くことができた。

撮影の練習をする

番組を見て話し合い、学習したことで理解しているつもりになっていることでも、やってみないと気付けないことも多くある。実際にオリジナル和菓子の撮影を想定し、粘土を使って撮影の練習をした。撮影したものを共有することで更なる課題を見つけた児童も多かった。自分たちの伝えたいメッセージをどう工夫したら相手に伝わるのか、より良い方法について考えることができた。

【活用番組と実践者による番組分析】

「アッ！とメディア@～media～」

「事実を写している？～写真～」(第9回)

「アッ！とメディア@～media～」は、メディア・リテラシーを身につけていないことによって起こる勘違いや失敗を、放送委員会を舞台にしたドラマで分かりやすく提示している。毎回どのようにしたら良いのかを視聴者に投げかけ、「メディア」の特徴や付き合い方を考えることができるように具体的にイメージさせてくれることで、主体的に学ぶ意欲を喚起させてくれる番組と捉えている。

【本実践における工夫点】

「自分事」として主体的に課題を受け止め学べる工夫

総合的な学習の時間で自分たちが開発した和菓子のポスター写真を撮影し、発信することを目的として学習に取り組んだ為、「メディア・リテラシー」について主体的に自分事として捉えて学びに向かう姿が見られた。ポスターの作り手としての情報を伝える立場と、ポスターを見る側としての情報を受け取る立場の両方の視点について必然的に考えることができていた。

1人1台端末の活用した写真撮影

番組を見て学んだつもりになっていても、実際にやってみないと分からないこともある。番組視聴後に実際に体験することで、学びが深まるように工夫をした。撮影中、番組の内容を思い出しながらさまざまなことを試している姿が多くみられた。また、撮影した写真をクラウド上で共有し、互いに見合う活動を取り入れた。これにより、自分たちの伝えたいメッセージがよりよく伝わるための方法を具体的に考えることが

【本実践の成果と課題】

はじめは「映える写真さえ撮れば良い」と考えていた児童が多かったが、番組を視聴することで「写真を見る人がどう受け取るのかを考えて撮影することが重要だ」と気付くことができた。特に「写真の後処理がどこまで許されるのか」といった部分は、「本物に手を加えてしまうと嘘になってしまうから気を付けるべきだ」と多くの児童が気付いていた。短い時間で、写真を見る人の視点を意識した情報の切り取り方や後処理方法の視点を児童は学んでいた。撮影した写真を見合うことで他者にどのような印象が伝わっているのかを確認する活動も取り入れたが、情報の受け手としての学びの体験がまだまだ足りないように感じる。この学習をきっかけとして多くの場面でさまざまな情報の意図を読み取る事を今後継続して指導していきたい。